

実力のうえでも「自共対決」時代へ



第26回党大会で報告する志位和夫委員長(中央)
11月15日、静岡県熱海市

日本共産党が26回大会 「暗黒日本への道ノ一」の共同を

日本共産党は第26回大会を開き(15~18日)、2010年代に党勢の倍増—50万人の党員、250万人の「しんぶん赤旗」読者を築いて実力のうえでも「自共対決」時代を切り開く方針を決めました。

大会では、安倍政権の平和・民主主義破壊の暴走に対し、「暗黒日本への道」を許さない国民的共同を呼びかけ。9条改変・「海外で戦争する国」づくりに反対し、憲法を守り生かすたたかいを発展させる▽5年間で約25兆

円もの軍拡計画をやめさせる▽秘密保護法廃止、共謀罪の新設許さず、「愛国心」押しつけを拒否する—などで力を合わせることを訴えました。

新書記局長 山下芳生氏



新書記局長に、参院議員の山下芳生氏(53歳)が選出されました。

山下氏は1995年、大阪選挙区で初当選。近畿を主な活動地域として比例代表で2期連続当選しています。前書記局長の市田忠義氏は副委員長に就きました。

折り目

沖縄市長選 名護

稲嶺氏 圧勝



名護市長選で勝利しバンザイする稲嶺進氏(中央) 11月19日、沖縄県名護市

「新基地ノ一」揺るがず

「札束」、強圧はね返す

安倍政権による新基地建設押しつけを許すかどうか最大争点となった沖縄県名護市長選は、「辺野古の海にも陸にも基地をつくらせない」と公約した現職の稲嶺進氏が基地推進派に圧勝しました。

稲嶺氏は、安倍政権が「札束」で県知事に基地建設のための埋め立てを承認させたことなどに対し、「市民はお金やどう喝

に屈しない」と訴え続けました。

安倍政権の暴走に痛打

選挙結果は、「辺野古移設反対、普天間基地閉鎖・撤去」の「オール沖縄」の声は揺るがないことを示し、安倍政権の暴走に痛打を与えるものとなりました。政府はこの結果を重く受け止め、新基地建設は断念すべきです。

日本共産党

近畿民報

2014年1月 No.3(第139号)
発行/日本共産党国会議員団
近畿ブロック事務所

〒540-0004 大阪市中央区玉造2丁目15番7号USビル2F
Tel.06(6764)9111 Fax.06(6764)9115
Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は以上の見解を
発表しました。